


3 パワーアシストスーツのフィールド実証

⇒医療分野から介護・在宅につなげる福祉分野のスマート化

【概要】

少子高齢化の進展に伴い、介護需要は増加する一方で、介護の担い手は減少することが見込まれる。さらに、介護現場では腰などへの身体的負担が大きいことから、継続的疲労による休職・離職率が高くなっており、人手不足に拍車をかけている。そこで、増加する介護需要に対応するとともにサービスの維持向上を図るため、パワーアシストスーツを導入し、介護現場における負担軽減、業務効率化の効果を検証する。

【実証内容】




介護施設

病院


対象作業

- ・車いすへの移乗
- ・トイレ立位保持介助
- ・浴槽からの引上げ介助
- ・ベッドでの体位交換 / 起上がり介助 など

パワーアシストスーツによる負担低減



測定項目
作業回数・作業時間・作業負荷・アンケート



負荷計測アプリ

- 実証の対象とする作業(工程・動作)を抽出
- 施設職員のパワーアシストスーツの習熟
- 対象とした作業において、パワーアシストスーツを装着した場合と装着しない場合での作業負荷・作業時間を計測 (アプリ使用)

「検証項目」

各介助作業での負担軽減と業務効率化の効果

「使用製品」

「J-PAS fleairy(フレアリー)」
(株式会社ジェイテクト)

【実証期間】

2022年10月24日から2022年12月頃まで

【実証施設】

市内介護施設 (2施設)

＜実証の関係者＞

刈谷市企画財政部企画政策課
医療法人豊田会
株式会社ジェイテクト